

第28回 KAWASAKIしんゆり映画祭2022 ご報告



2023年1月

NPO法人 KAWASAKIアーツ
KAWASAKIしんゆり映画祭実行委員

2020年3月策定

「KAWASAKIしんゆり映画祭」が目指すもの

1. 「KAWASAKIしんゆり映画祭」は、市民（みんな）が映画を自発的に上映する活動を通じて、個性豊かで魅力ある芸術文化のまちを実現します。
2. 国内外の良質な映画を市民目線で発見し、表現と作品理解の多様性を尊重しながら、多くの市民に届けます。
3. 誰もが気軽に映画を劇場で楽しみ、映画・映像文化の素晴らしさを感じてもらえるよう、映画を鑑賞する上での環境を整えます。
4. 映画祭を担う市民ボランティアは、映画を創る人・観る人・観せる人のつながりを大切にし、映画を観る喜びをともにします。
5. 川崎市アートセンターをはじめ、地域の様々な団体等と連携協働を図り、川崎市が進める「しんゆり・芸術のまち」構想の実現に寄与します。

第28回KAWASAKIしんゆり映画祭2022のご報告にあたって

1995年に川崎市の「しんゆり・芸術のまち」構想の一環としてスタートしたKAWASAKIしんゆり映画祭は、「市民（みんな）がつくる映画のお祭り」として、新百合ヶ丘を拠点にして28年目を迎えました。この間、地域住民、企業や団体等の皆さまのご支援とご協力を得ながら、市民ボランティアスタッフが企画・運営の中心を担い、行政がバックアップする形の映画祭として定着、発展してまいりました。

2022年度の映画祭（以下、本祭）は、新型コロナウイルス感染拡大による影響が続く中、徹底した感染予防対策を講じながら、10月末から11月上旬にかけて延べ5日間の日程で実施しました。通年テーマ『映画とともに まちとともに』を掲げ、2022年は「迷ったときこそ映画をみよう」のキャッチコピーで13本の上映・イベントを実施しました。

8月20日には、コロナ禍の影響で3年振りとなる「なつやすみ野外上映会」を川崎市立百合丘小学校校庭で実施し、悪天候にもかかわらず大勢のお客様にご鑑賞いただきました。

また、12月上旬から1月中旬にかけて中学生向けの映画制作ワークショップを計6回の日程で好評のうちに実施することができました。

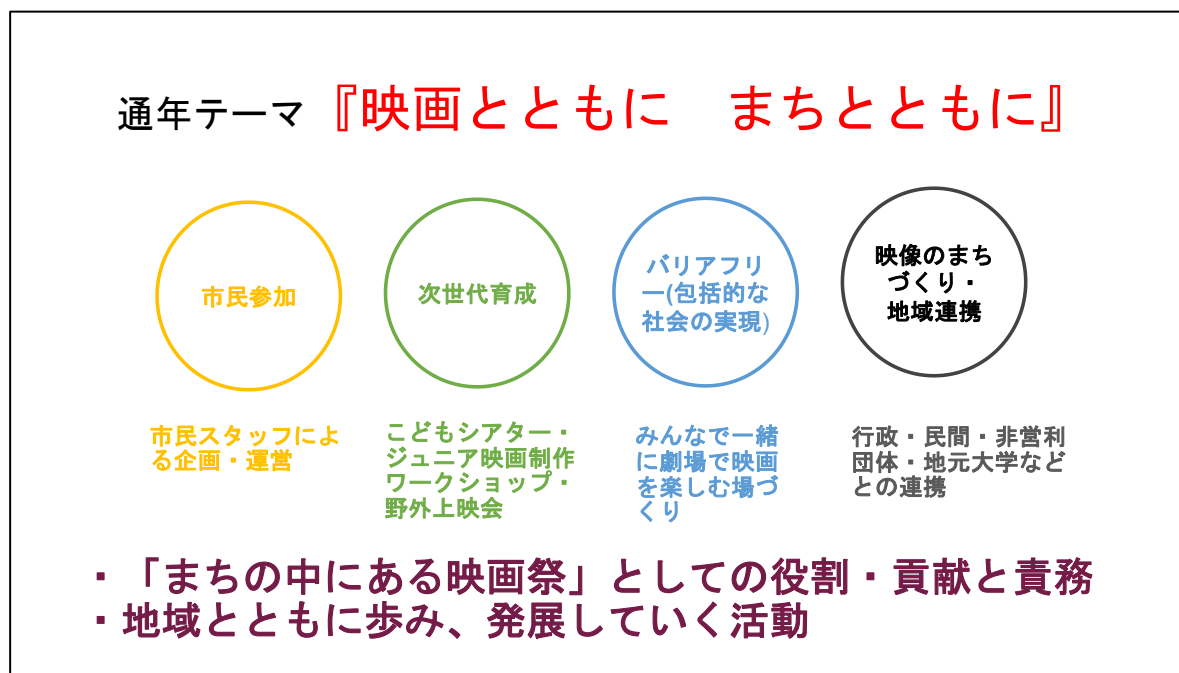
上記の事業に加え、「あさお区民まつり」、「しんゆりフェスティバル・マルシェ」、「あさお子育てフェスタ」といった新百合ヶ丘のまちづくり活動への参加や、「グリーンボード新百合ヶ丘チーム」「ロコっち新百合ヶ丘」「かわさきママのわ事務局」「Link mama」といった地域で活動する団体との交流活動も行ってまいりました。

ご高配をいただきました皆さまへ感謝申し上げるとともに、2022年度の開催結果についてご報告させていただきます。今後とも当映画祭へのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2023年1月

NPO法人KAWASAKIアーツ
KAWASAKIしんゆり映画祭実行委員会

KAWASAKIしんゆり映画祭のテーマと活動の柱（イメージ）



2022年度の主な活動(概要)

1. 第28回KAWASAKIしんゆり映画祭2022(本祭)

開催期間：2022年10月30日(日)、11月3日(木・祝)～6日(日)

開催会場：川崎市アートセンター アルテリオ映像館・アルテリオ小劇場

延べ入場者数：映画祭本祭 1,574人 *昨年度比 約36%増

(詳細は4ページに記載)

2. 麻生区区制40周年記念 なつやすみ野外上映会

開催日時：2022年8月20日(土)18時30分～20時

開催会場：川崎市立百合丘小学校校庭

上映作品：「眠れない夜の月」、「プックラポッタと森の時間」(八代健志監督)

入場者数：157人

※上映前に昨年度実施したジュニア制作ワークショップのイベント実施

(詳細は11ページに記載)

3. ジュニア映画制作ワークショップ2022

「アイディアを映像に！みんなでストップモーションアニメをつくろう」

開催期間：2022年12月4日(日)～2023年1月15日(日) 計6回

開催場所：新百合21ホール第2会議室ほか

講師：廣木綾子氏(ディレクター・アニメーター)

参加者数：9名

(詳細は12ページに記載)

4. バリアフリー上映(本祭で実施)

(詳細は12ページに記載)

5. 地域連携(他団体・事業者等との交流連携)

(詳細は14ページに記載)

・主催

NPO法人KAWASAKIアーツ

・共催

川崎市、川崎市アートセンター(川崎市文化財団グループ)、

川崎市教育委員会、(一財)川崎新都心街づくり財団

・特別後援

日本映画大学、昭和音楽大学

・後援

「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、

NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり、麻生区文化協会

◎各活動の内容

1. 第28回KAWASAKIしんゆり映画祭2022(本祭)

今年の本祭は「迷ったときこそ映画をみよう」をキャッチコピーとして、混迷する社会情勢の中、「生きる力」「自分の生きる道」に焦点を当て、13プログラムを選定・上映しました。多彩なゲストをお迎えしてアフタートークなど10のイベントを開催し、昨年度を大きく上回るお客様にご来場いただき、映画を「創る人」と「観る人」をつなぐお祭りとなりました。また、「みせる人」として多くの市民がスタッフとして参加し、プログラム選定・イベント企画を行うことも当映画祭の特色の一つとなっております。今年も半年をかけて、市民目線で上映の特集を組みました。(次ページリスト参照)

【上映作品リスト】

| 特集名 | 作品名 | 監督 (敬称略) | ゲスト(敬称略) |
|--------------------|-----------------------|---------------|-----------------------------------|
| 自分の“わくわく”にした がう | 名付けようのない踊り | 犬童一心 | 犬童一心(オンライン)・ 田中泯(現地・オンライ ン) |
| | 夢みる小学校 | オオタヴィ ン | オオタヴィン・ 西郷孝彦 |
| 大好きになる、夢中にな る | ハケンアニメ! | 吉野耕平 | 吉野耕平 |
| | サマーフィルムにのって | 松本壮史 | |
| | ミラクルシティコザ | 平一紘 | 平一紘(オンライン) |
| 自分らしく生きたい | マイスマールランド | 川和田恵真 | 川和田恵麻・ 嵐莉菜 |
| | グレート・インディアン・キ ッチン | ジョー・ベ ービ | 流水りんこ |
| | ツユクサ | 平山秀幸 | 平山秀幸・ 小林聡美 |
| | 犬部! | 篠原哲雄 | 篠原哲雄 |
| これからの濱口竜介 | 偶然と想像 | 濱口竜介 | |
| 今観るべき知られざる名 作 | 未知への飛行 ーフェイル・セイファー | シドニー・ ルメット | 森田健司 |
| 佐藤忠男先生追悼上映 | オールド・ドッグ | ペマ・ツェ テン | |
| しんゆりこどもシアター | 長くつ下のピッピ (日本語吹替版) | オッレ・ヘ ルボム | |

【各プログラム及びイベントの内容】

①『名付けようのない踊り』（1回目：11月4日 2回目：11月6日）

世界各国での〈場踊り〉をはじめとする田中泯さんの踊りと、農事する日常と哲学に犬童一心監督が迫ったドキュメンタリー。現代に拮抗する田中さんの姿は、私たちに多くの問いを投げかけています。作品上映とともに、田中泯さんを体感していただくトークイベントを企画しました。

1回目の上映後、田中泯さんをお迎えし、トークイベントを開催することができました。市民主体で企画運営しているしんゆり映画祭にご共感いただき、エールとしてのご登壇が実現しました。川崎とのご縁や佐藤忠男先生との思い出話をお聞かせいただき、会場からの質問にとても丁寧にお答えくださり、予定時間を超える熱いイベントとなりました。

2回目の上映後は、犬童一心監督と田中泯さんに福岡からオンラインでおつなぎいただきました。お二方のお話を聞くことができるチャンスとあって、多くのお客様がご来場くださいました。映画を創る方の思いに触れ、思いを受け取る観客。「創る人」と「観る人」の出会いの場としての映画祭の力を感じるイベントとなりました。



『名付けようのない踊り』 田中泯さん(11/4)



『名付けようのない踊り』
犬童一心監督(右)と田中泯さん(左)
(11/6 オンライン)

②夢みる小学校（1回目：10月30日 2回目：11月4日）

オープニングとなった本作品には、子育て中の親御さんをはじめご年配の方や教育関係のお仕事に携わる方など幅広い層のお客様にお越しいただくことができました。上映中は頷いたり涙ぐんだりとおひとりおひとりが実感を伴ってご覧になっている様子が伝わってきて、終了時には自然と拍手が起きました。オオタヴィン監督と映画にも登場する西郷孝彦さん(世田谷区立桜丘中学校・前校長)にご登壇いただいた際には会場から活発な質問があがり、全体がひとつになっていると感じたひとときでした。また、この映画を観る為に今年初めて映画祭に参加したという方も多くみられ、子供の未来や教育への関心の高さを感じる結果となりました。

③ハケンアニメ！（1回目：11月4日 2回目：11月5日）

2回目の上映後には、吉野耕平監督をお迎えしてオンラインでのトークイベントを実施しました。吉野監督から「原作小説を映画化する中でのご苦労」や「劇中に流れるアニメを作る楽しさ」など作品を完成させるまでの苦楽を真っ直ぐにお話し頂きました。自分の作りたい作品が

ありながら、なかなか思い通りに進まない状況や、スタッフさん達に助けられながら映画を完成させることができたことなど、お話しいただいた吉野監督の姿が、主人公とリンクしているように感じ、これが作品に更なる魔法をかけていたのかと思いました。



『夢みる小学校』オオタヴィン監督(左)と西郷孝彦さん(右)



『ハケンアニメ』吉野耕平監督(オンライン)

④マイスモールランド (1回目:11月5日 2回目:11月6日)

難民申請とその家族がテーマであるこの作品を、多くの方に観ていただき、まず知っていただきたいという思いで上映いたしました。2回目の上映はほぼ満席となり、上映後に川和田恵真監督、主演の嵐莉菜さんにご登壇いただきました。監督にはこの作品の制作に至った思いや、難民申請を巡り実際に日本で起こっていることに、関心を持ち続ける大切さをお話しいただきました。観客の中には何度も鑑賞された方、涙ながらにお話しくくださった方もいました。アンケートには「知ることができて良かった」、「考えるきっかけになった」、「何か行動を起こしたい」など、作品の思いが伝わっていることが感じられるコメントをいただきました。



『マイスモールランド』川和田恵真監督(左)と嵐莉菜さん(右)

⑤ミラクルシティコザ (1回目:11月3日 2回目:11月5日)

2022年は沖縄本土復帰50周年の年。そして川崎と沖縄は深いつながりがあります。この記念の年に選んだ作品が「ミラクルシティコザ」。沖縄の現代史を語る上で外せないコザ暴動の起きた1970年と現代を、オキナワンロックでつないだタイムスリップエンターテインメント。日本のロックシーンに大きな影響を与えたオキナワンロックを、この作品で初めて知った人も多かったようです。上映初日は平監督がオンラインで沖縄から登壇いただき、単なるロックエンターテインメントに終わらない、この映画に込めた沖縄とコザの街への思いを熱く語ってくれました。今も基地問題に悩まされている沖縄の現状に思いを馳せる一助になったのではないかと思います。

⑥グレート・インディアン・キッチン（1回目：10月30日 2回目：11月4日）

1回目の上映後、『インド夫婦茶碗』などの著作で知られる漫画家・流水りんこさんに、オンラインでご登壇いただきました。トークでは、インドの魅力や南インドの生活や習慣などをご紹介いただき、今のインドでは映画で描かれたような立場の女性や場面は少なくなりつつあること、女性同士の助け合いがあるなどのお話もお聞きしました。さらにはインド料理のお話など多岐にわたる内容で、会場のインドへの興味も深まりました。

会場からは、劇中の男性の描き方について男性からの質問、インドでの公開時の反応についての質問もあり、会場の質問にテンポ良く、そして、とても丁寧にお答え下さる流水さんの気さくなお人柄にも触れられた素敵なトークイベントとなりました。



『ミラクルシティコザ』平一紘監督(オンライン)



『グレート・インディアン・キッチン』
流水りんこさん(オンライン)

⑦ツユクサ（1回目：10月30日 2回目：11月5日）

大人の人生にそっと寄り添ってくれるようなあたたかいこの作品を、多くの方に味わっていただきたいという思いで選びました。1回目の上映後、平山秀幸監督と小林聡美さんにご登壇いただきました。主人公がボディタオル工場に勤めていたことから、お二人をお迎えする際に、観客の皆様にご協力いただき、ボディタオルを一斉に振って歓迎いたしました。会場中があたたかい雰囲気にも包まれ、このような一体感も「映画のお祭り」ならではの感想をいただきました。アンケートには「幸せな気分になった」、「安らぎを得られた」など、この作品の持つあたたかさが伝わったコメント、監督と小林さんのトークを楽しめた様子が伺えるコメントを多くいただきました。

⑧犬部！（1回目：11月4日 2回目：11月6日）

1回目の上映後には、篠原哲雄監督にご登壇いただきました。作品のキャスティングの背景や、動物福祉についてのお考えを伺うことができました。Q&Aでは、会場からも「お涙頂戴の動物映画」ではなく、俳優さんの紡ぐドラマが素晴らしかったという感想が挙がり、監督とお客様が熱く盛り上がる場面がありました。

ご来場者アンケートでは「とても大切な映画。動物たちの命をどう守るか、考えるきっかけをもってほしい。ぜひ小学校で子どもたちにも見せてあげてほしいです。この映画は悪者がおらず、命をあきらめないことを伝えているのが素晴らしい。」など、観客の心に作品が届いていることが感じられる数多くコメントが寄せられました。



『ツユクサ』 平山秀幸監督（右）と小林聡美さん（左）



『犬部！』 篠原哲雄監督

⑨未知への飛行－フェイル・セイフー（1回目：11月3日 2回目：11月4日）

1回目の上映後、映画評論家・森田健司さんにご登壇いただきました。森田さんからは製作当時の時代背景から作品のディテールや裏話までわかりやすい解説をして下さり、お客様の作品に対する理解も深まったようでした。トークイベント終了後は、会場をコラボレーションスペースに移し、「さらに映画のお話の続きをお聴きするだけでなく、話し合う」試みを行いました。お客様と森田さん、そして映画祭スタッフが車座になって、お互いの顔を見ながらざっくばらんなおしゃべりとなり、映画の余韻を満喫しました。

⑩サマーフィルムにのって（1回目：11月5日 2回目：11月6日）

スタッフによる応援団は上映を盛り上げるため、劇場入口で手作りの飾り付けアーチを掲げ、武士と町娘に扮するなどしてお客様をお迎えしました。開場の際、お客様は驚きながらも心弾むような様子で入場されていました。上映後には、「いい映画でした」「涙ができました」「劇場の大きなスクリーンで観られて最高でした」などの声をかけていただきました。SNS上でも、「この作品を推すスタッフの熱意が素晴らしい」「映画祭のゆるりとした手作り感があたたかくてよかった」というつぶやきが寄せられました。両日とも幅広い世代のお客様が来場され、初めて観る方から数十回も鑑賞されている熱烈なファンの方まで、この青春映画の傑作を堪能されていました。



『未知への飛行－フェイル・セイフー』 森田健司さん



『サマーフィルムにのって』 スタッフによるお迎え

⑪偶然と想像（1回目：11月4日 2回目：11月6日）

「ドライブ・マイ・カー」のオスカー受賞などで世界中の視線を集める濱口竜介監督の最新作を上映しました。コロナ禍や世界の状況を憂う「今」だからこそ、「対話」の大切さを見直し、心の奥底の「痛み」も前向きに乗り越えてほしいという想いで選びました。上映後には、ご出演の古川琴音さんからメッセージをいただき、上映後にお客様に届けることが出来ました。映画や監督についてもっと理解したいとの思いを持たれたお客様が多いようで、パンフレットには購入の列が出来ていました。帰りがけに「本当にいい映画ですね」とスタッフに感想のお声がけをいただくなど、静かだけれど深い感動が広がった、そんな上映でした。

⑫オールド・ドッグ（11月5日）

しんゆり映画祭を創設期から見守り、育てて下さった佐藤忠男さん(映画評論家・日本映画大学名誉学長)が2022年3月にご逝去されました。佐藤先生への感謝とともに、アジア各国の優れた映画の普及に尽力された先生の業績に心からの敬意を表す企画として、『オールド・ドッグ』を上映しました。鑑賞の機会が少ない名作を、多くのお客様にご覧いただくことができたことで、先生から再び映画祭の役割を教えていただいたように思います。これからも先生のご遺志を継いで上映活動を行ってまいります。

⑬長くつ下のピッピ（1回目：11月3日 2回目：11月6日）

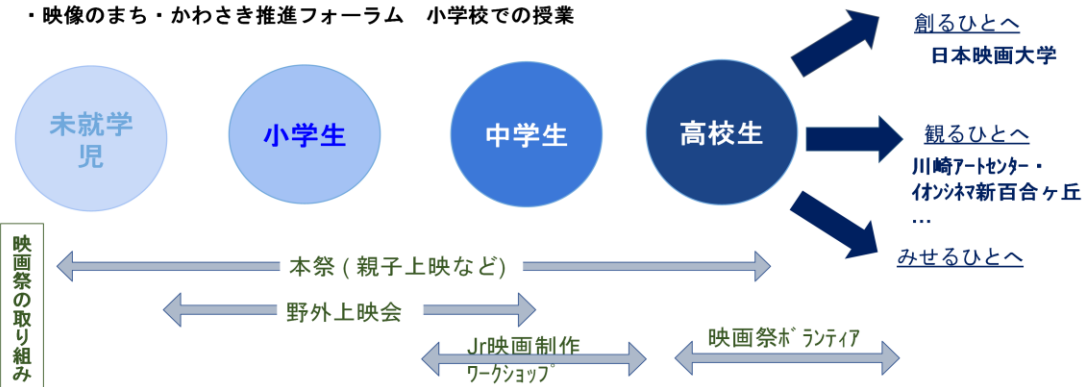
お子さんやファミリーに映画祭を楽しんでいただけるような作品を「しんゆりこどもシアター」として毎年上映しています。今年は、原作者のアストリッド・リンドグレンの没後20年でもある『長くつ下のピッピ』を企画しました。世界中で愛される“ピッピ”の自由奔放なキャラクターは、子どもたちには新しく大人には懐かしく、また童心にかえって楽しんでもらえたようでした。感想を書いたり、場面やお出かけの思い出の絵を描いて送ってくださるようハガキを会場でお配りしました。上映後に続々とお便りが届いています。宮前図書館では本作も含む原作の設置や移動図書館でご紹介いただくなどのご協力もいただきました。

【コラム】次世代を担う若者の育成に向けた取組

KAWASAKIしんゆり映画祭では、未就学児から高校生にわたる若い世代に映画の楽しさ・素晴らしさに触れてもらうことを目指し、地域で活動されている団体様との連携や地域資源を活用しながら、様々な取組を行っています。

地域の子どもたちが映画に触れる機会を！

- ・日本映画大学「こども映画大学」 ・川崎市アートセンター「わくわくワークショップ」
- ・映像のまち・かわさき推進フォーラム 小学校での授業



2. 麻生区制40周年記念・なつやすみ野外上映会

「なつやすみ野外上映会」は、映画祭のプレイベントとして地域の夏祭りを再現する催しとして開催してきました。コロナ禍により3年ぶりとなる今回は、市立百合丘小学校を会場に、麻生区政40周年記念事業として開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡散予防のため、麻生区と協議し、事前予約(定員250名)・座席指定等を徹底して実施しました。

本編上映前のイベントとして、上映作品にちなんだコマ撮りアニメーションの原理を紹介するミニワークショップを実施しました。また、2022年度「ジュニア映画制作ワークショップ」で中学生が制作した作品上映と、参加中学生へのインタビューを行いました。時折笑い声が起るなど会場はなごやかな雰囲気になりました。上映直前に雨が降り出し、上映には厳しい環境になりましたが、100名近いお客様が最後まで鑑賞して下さい、盛況のうちに上映会を無事終えることができました。



会場の様子



ジュニアワークショップのイベント

3. ジュニア映画制作ワークショップ2022

映画祭では、地域の子どもたちに「映画」や「映像制作」への興味を深めてもらえるよう、中学生向けの「映画制作ワークショップ」や、「なつやすみ野外上映会」でのミニワークショップ等を開催しています。

「ジュニア映画制作ワークショップ」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2020年からオンライン開催してきましたが、今年度は「アイデアを映像に！みんなでストップモーションアニメを作ろう」と題し、3年ぶりのオンサイトで、ストップモーションアニメーション制作に挑戦する講座を開催しました。

講師にはアニメーターでディレクターの廣木綾子(ひろきあやこ)さんをお招きし、9名の中学生がひとつの作品をグループ制作しました。作品は、来年度の「なつやすみ野外上映会」でのお披露目を予定しています。全6回の講座ではありますが、この機会が受講生の今後の創作活動への足がかりとなることや、「観る人」(鑑賞者)として、作品や「創る人」への理解につながることを願っております。



募集チラシ



ジュニアワークショップの様子

4. バリアフリー上映(本祭で実施)

1997年、中途視覚障がいの方から「映画の場面説明もイヤホンで聴けないだろうか？」と問い合わせの電話がかかってきたことから、副音声イヤホンガイドの制作・上映をはじめました。その後、聴覚障がいの方は、字幕のある外国語映画と違って、日本映画を見る機会が少ないと知り、日本映画に日本語字幕を付け、育児中でも劇場で映画が見たいという方のため、保育サービスをはじめました。車椅子ご利用の方からのご要望で、駅からの案内動画や手書きアクセスマップを作成、「あさお交流カフェ」で提案させていただくなど、手探りで活動を続けて来ました。

今年は、『ツユクサ』の副音声イヤホンガイド制作と上映をしました。上映後には平山秀幸監督と主演の小林聡美さんを壇上にお招きしてトークイベントを実施し、ご利用の方から「映画はファンタスティック、コミカル、ロマンティック、色々な立場の見方のできる映画だと思いますが、このような中年男女の出会いがほんわかと進行するのは、現実にはないと思うものの、もしかしたらと夢を見させてくれるようなところもあり、見終わって気持ちの良い映画でした。

また見えないながらも、画面は終始明るい感じがしていました」と感想を頂きました。ご利用の方からの声をサービスに反映させていくとともに、活動の励みともなっています。

近年では、視覚や聴覚に障がいをお持ちの方それぞれに音声ガイドや字幕表示ができるアプリケーションに対応した作品も増えており、今年の上映作品では、UDCast®(3作品)とHELLO! MOVIE®(1作品)と、障がいをお持ちの方に楽しんでいただける映画の選択肢を広げ、全スタッフに新百合ヶ丘駅と会場(川崎市アートセンター)間の送迎を行えるよう事前研修を行い、本番に備えました。

また、バリアフリー日本語字幕のスクリーン投射上映を行っており、今年は『ハケンアニメ!』、『名付けようのない踊り』の2作品に上映数を増やし、UDCast®字幕付きも含めた、字幕付き上映の全イベントについて手話通訳・要約筆記などの予約受付も行いました。

「保育付き上映」は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から実施を見合わせました。



『ツユクサ』トークイベント



スタッフによる事前研修

「劇場でみんな一緒に映画を楽しみたい」とはじまったバリアフリー上映は、今年で25周年となりました。初心に戻り、「ご要望を改めてお聴きし、皆さんと一緒に映画祭をつくっていききたい」と、地域の子育て世代の皆さんにアンケートを実施しました(7/1~16)。時代に変化に伴った保育付き上映のニーズをお伺いするとともに、新百合ヶ丘の次世代を担っていく、お子さんやファミリー向けの上映・イベントについてのご意やご要望も伺いました。「今まさに子育て中」「お子さんが大きくなった」「お孫さんがいらっしゃる」75名の方からのご回答をいただきました。

また、地域で活動する団体(「かわさきママのわ事務局」「グリーンバード新百合ヶ丘チーム」「ロコっち新百合ヶ丘」「Link mama」)の代表の方にお集まりいただき、子育て世代のスタッフとの座談会を実施しました(8/7)。この場でいただいたご意見から、お子さんと一緒に鑑賞できる「小劇場・親子観劇室」サービスを開始するなど新しい取り組みにも繋がりました。



座談会の様子



アンケートのお願い

5. 地域連携(他団体・事業者等との交流連携)

当映画祭は、通年テーマとして「映画とともに まちとともに」を掲げ、地域の団体・事業者の皆様からのご協力をいただきながら、「映画」を中心とした「芸術のまちづくり」を実践しています。ご協力だけでなく、地域の皆様からの声をいただきながら、連携・交流を進め、また、街のイベントへの参加を積極的に行うことで、活動の輪を広げることに努めています。

①公式リーフレット企画「しんゆり こどもとおさんぽMAP」

今年は、25周年をむかえた「しんゆりバリアフリーシアター」が、子育て世代の方々への上映見直しを行いました。そのコラボレーション企画として、小さなお子さまのいらっしゃる方の目線で新百合ヶ丘の街をご紹介したマップを作成し公式リーフレットに掲載、行政をはじめ民間企業や市民による様々な活動から生まれる子育てしやすい街としての魅力をお伝えしました。

新百合ヶ丘は、芸術の街としての側面を持つとともに、街路樹の植えられた広く歩きやすい歩道が整備されており、駅の周辺には幾つもの個性ある公園が点在する緑豊かな、そして安心して過ごせる暮らしやすい街です。マップでは、子育て世代の方々にご活用いただけるよう、特徴を表記した地域の公園やお散歩中にひとやすみできるお子さん歓迎のカフェ、サービス等をご紹介します。さらに、幅広い世代にご興味を持っていただけるよう、イベントや街路樹のご紹介等も加えました。公園や街路樹についての記載は、麻生区役所道路公園センターにもご協力いただいています。

本祭開催時には、映画を観終えたご来場者さまに「ふるさと緑地はどこから行かれますか？」と聞かれました。他の地域から映画祭にお越しになった方にも、上映後には少し足を延ばしていただき、この街の魅力を知っていただければ幸いです。今後も、映画を通じて地域の皆さまとの交流を深め、映画祭と共に新百合ヶ丘の良さをお伝えしていけるよう努めてまいります。



「しんゆり こどもとおさんぽMAP」(見開きページ)

②地域で活動する団体様との座談会、「あさお子育てフェスタ」への参加

2022年9月17日に麻生区の子育て応援イベント「あさお子育てフェスタ」に参加しました。ブースでは、しんゆり映画祭で例年行っている「なつやすみ野外上映会」の報告、「ジュニア映画制作ワークショップ」、「しんゆりこどもシアター」、「保育付上映(2022年は中止)」、「小劇場親子観劇室利用(2022年開始)」の宣伝を行いました。また、今年度しんゆり映画祭では、映画祭における、子育て世代のニーズを探るべく、アンケート収集、座談会を行いました。それらの報告や、他団体とのコラボレーションイベント「アートと音楽でなつまつり」にて行ったワークショップの報告も掲示し、来場された方々にご覧いただきました。さらに、他の子育て関連団体のブースを見学し、子育て世代の方々が希望されるイベントなどを調査しました。今後、多くの子育て世代の方々にしんゆり映画祭へご来場いただけるよう、ニーズにあった上映企画を考える上でのヒントをいただきました。



子育てフェスタでの掲示



座談会にご出席の皆様

③「しんゆりフェスティバル・マルシェ」、「あさお区民まつり」への参加

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムは、まちの活性化とブランド力向上を目指して活動されていますが、当映画祭をご支援いただいている協賛者でもあります。映画祭をより多くの方に知っていただき、相互に盛り上げていけるように、10月8日には、同団体が主催する「しんゆりフェスティバル・マルシェ」に初出展させていただき、ブース内で前売券の発売や本祭のPR活動を行いました。翌9日は、麻生区主催の「あさお区民まつり」にも出展させていただきました。ブースでは映画祭のマスコットキャラクターである“シネマウマ”の塗り絵コーナーを設け、多くの方に参加していただきました。

両イベントでは「好きな映画・思い出の映画」アンケートを行い、約200のご回答をいただきました。(塗り絵とアンケートは本祭会場のメインビジュアルとして飾らせていただきました。)

いずれのイベントも、お客様とスタッフが直接触れ合い、お話をさせていただくことができ、子どもにとって貴重で、楽しく、充実したひとときでした。



しんゆりフェスティバル・マルシェ



あさお区民まつり

④その他さまざまな地域イベントへの参加

映画祭が拠点とする新百合ヶ丘周辺には、様々なまちづくり関連団体が活動されています。こうした団体の活動に、まちの一員として映画祭も参加しています。コロナ禍により、地域での各種イベントは中止・休止に追い込まれてきましたが、感染状況が落ち着くにつれ、これらのイベントも次第に再開・復活してきました。今後も、映画祭が“しんゆり”のまちづくりのプレーヤーでもあることを踏まえながら、機会を捉えて地域イベントにも積極的に参加し地域の発展・活性化に貢献してまいります。

・「新百合ヶ丘南口クリーンアップ大作戦」

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムさんは3年前から同イベントを定期的で開催され、地元企業やボランティアなどが参加して駅周辺の清掃や花壇の手入れを行っています。5月28日（土）に開催された同イベントには当映画祭スタッフも参加させていただき、他の参加者の方々と一緒にデッキ清掃に汗を流しました。

・「グリーンバード新百合ヶ丘チーム」

グリーンバード新百合ヶ丘チームさんは、毎月第3日曜日に新百合ヶ丘駅周辺の清掃活動をされており、地域の交流の場となっています。当映画祭スタッフも参加させていただき、活動を通じて、参加者の方や、団体メンバーの方々との交流の輪が広がりました。参加者の映画祭への来場やイベントへ・宣伝へのご協力など地域の皆様との関わりが深まっています。

・「アートと音楽でなつまつり」

映画祭では、中学生向けの「映像制作ワークショップ」の他に、地域の子どもたちに「映画」や「映像制作」への興味を深めてもらえるようなミニワークショップも開催しています。この一つとして、今夏には、川崎市アートセンターとNPOしんゆり・芸術のまちづくりが共催し、映画祭本祭の会場でもある川崎市アートセンター3階コラボレーションスペースで開かれた「アートと音楽でなつまつり」に参加させていただきました。アニメーションの元祖と言われているソーマトロープうちわの塗り絵をおこさまと一緒にいき、最後は音楽工房 座 MARUさんのワークショップで作った楽器の奏でる音に合わせて、完成したうちわを振り、文字通りコラボの楽しさを感じる時間となりました。

・「まちのひろば祭り I♥あさお」 9/23(金・祝)

主催：あさお希望のシナリオ実行委員会 内容：ソーマトロープうちわ・塗り絵

・「ふらっとリビング」 10/12(水)

主催：ふらっと新百合ヶ丘 内容：ソーマトロープうちわ・塗り絵

【今後の予定】

・「カフェグランデあさお」 2023/2/19(日)

主催：NPOしんゆり・芸術のまちづくり 内容：シネマウマ塗り絵、活動報告展示

・「映像のまち・かわさき」推進フォーラムとの連携企画で、実相寺昭雄監督の展示等と一緒に展開（詳細な内容・時期は未定） など…

⑥「サポーターロール」の試作・上映

当映画祭は、共催・特別後援・後援・協賛・協力など、多くの方々からのご支援・ご理解により運営を続けています。今年は、こうした方々への感謝の気持ちを表すため、スタッフ手作りで「サポーターロール」を試作し、本祭(映像館)において、映画予告編とあわせ上映させていただきました。BGMには麻生区イメージソング「かがやいて麻生」を添えて、まちとの一体感を演出しました。今回の試みを踏まえ、今後も如何に感謝の気持ちをお伝えしていくか検討を続けてまいります。

⑦ポスターなどの広告宣伝

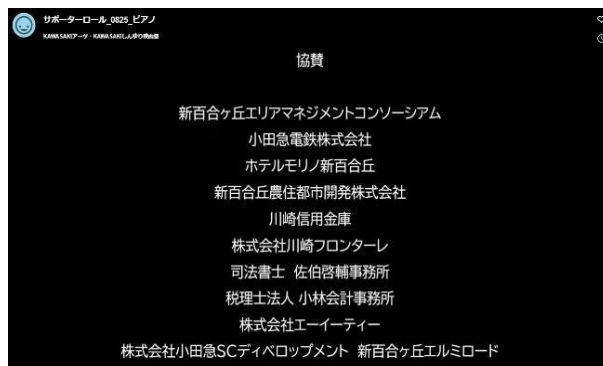
当映画祭では多くの方々の御理解とご協力のもと、広告宣伝用のポスター貼り付けなどをさせていただきます。

今年も新百合ヶ丘駅南口デッキでの立て看板設置や地下バスロータリーでの柱巻きポスターをはじめ、各所でポスター貼りやリーフレットを置かせていただきました。

加えて、今年から小田急電鉄様のご協力のもと新百合ヶ丘駅構内にもポスターやのぼり旗などを設置させていただくことができ、映画祭の更なる盛り上げに花を添えることができました。



南口デッキの立て看板



サポーターロール



柱巻きポスター



新百合ヶ丘駅構内の様子

6. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 ～ご協力ありがとうございました～

新型コロナウイルス感染拡大の影響が続く中、劇場で安心して映画を楽しんでいただくために、映画祭では国・神奈川県・川崎市の新型コロナウイルス感染症対策に係る対処方針や各種関係団体の感染拡大予防ガイドライン等に沿った対策を講じて開催しました。

今年から客席定員の100%入場に戻しつつ、全席指定席制を継続し、入場時の混雑緩和に取り組みました。さらに、検温・手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス確保等の基本的な対策に加え、県の「感染防止対策取組書・LINEコロナお知らせシステム」の利用推奨や、万一のために来場者への連絡が取れるよう来場者カードの記入による情報収集など、徹底した対策を実施いたしました。来場者アンケートでは、「対策は十分であった」とのご回答をいただきました。



入場時におけるご案内の様子



当日券販売は会場前のテントで

おかげさまで今年も無事に本祭を終了することができ、来場者アンケートの集計結果でも多くの皆さまから十分な対策がとられていたとのご意見が寄せられました。ご来場のお客さまをはじめ、関係各位のご協力に改めて感謝申し上げます。

今後も新型コロナウイルス感染拡大による影響が続き、収束までにはなお時間を要することが予想されます。このため、2023年度も感染症拡大防止に努めながら、映画祭の開催に向けて準備を進めてまいります。引き続き皆さまのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。



●NPO法人KAWASAKIアーツ・映画祭事務局
〒215-0004
川崎市麻生区万福寺1-2-2新百合21ビルB2階
TEL：044-953-7652 / FAX：044-953-7685
E-Mail：cinema-uma@siff.jp
担当：大多喜ゆかり / 柳町恵太
●ホームページ
URL：<https://www.main.siff.jp/>

《注意 写真の無断転載はご遠慮願います》